




研究者名※	今田由香 IMADA Yuka	学位※	博士(学術)
所属※	家政学部 児童学科	職名※	准教授
連絡先	imaday@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/read0141339		
研究分野※	人文学 芸術学、子ども学		
研究キーワード※	表象文化論、芸術表現、文化環境、		
共同研究・競争的資金等の研究課題			
社会貢献・産学官連携活動等	<ul style="list-style-type: none"> ・講座「大人の絵本の楽しみ方」講師(東京都国分寺市立光公民館,2011年2月~3月) ・独立行政法人 国立青少年教育振興機構 絵本専門士養成講座 講師(2014年~現在) ・講演「読者が完成する絵本 主体的な読書が子どもにもたらすもの」(草津市役所, 2018年11月) ・講演「ウンゲラーが絵本に描いた、大人と子ども、動物の「すてきな」関係」(銀座・教文館ナルニア国, 2019年7月) ・講演「絵本への期待 -平成の絵本作家と編集者、そして読者」(国立国会図書館国際子ども図書館, 2020年11月) ・講演「昭和後期から平成時代に生まれた”おかしな絵本”を読む」(大阪府吹田市中央図書館, 2021年11月,12月) 		
受賞歴	第43回 日本児童文学学会奨励賞受賞 (2019年)		

研究領域	児童文化 絵本学	(SDGs)	
研究テーマ※	物語絵本の表現と機能		
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】 絵本が子どもの健やかな発達に寄与する文化財だと認められているようになって久しい。また、1990年代以降には、絵本や絵本文化に親しむ若者や大人が増え、絵本作家を志すアーティストも多くなった。絵本は、幅広い年代の人々から信頼され、期待されている。それはなぜなのだろうか。その理由を知りたいと思い、現代の物語絵本を中心に、作品、作家、読者と社会、複数の視点から、絵本の表現と機能について研究を続けている。</p> <p>【応用例、研究の展望】 現在は、絵本における余白や欠如の表現に注目している。本来は存在するものが描かれていないページや余白や空白を大きく残したページがある絵本に目をむけ、描かれていないことの意味について考察している。特に近年、オーストラリアやニュージーランド、カナダなど、多文化・多民族が暮らす文化圏から、多くの読者を魅了する「文字のない絵本」が出版され続けていることに着目している。</p> <p>【研究方法の特色】 私たちはなぜ物語を、そして絵本を必要とするのかという命題のもと、文学、芸術学、絵本に隣接する諸芸術とその先行研究に学び、文献調査だけではなく、作品が生まれた土地でフィールドワークを行い、作家や編集者へインタビューを実施し、子どもの読書場面を観察しながら、現代社会における物語絵本の表現、出版、読書の様相を他面的に捉えようとしている。</p>		
本研究関連特許・論文等	<ul style="list-style-type: none"> ・今田由香著『トミ・ウンゲラーと絵本: その人生と作品』玉川大学出版部、2018年。 ・今田由香,大島丈志編著『絵本ものがたりFIND ー見つける・つむぐ・変化させるー (シリーズ「絵本をめぐる活動」2)』ミネルヴァ書房,2016年。 		
共同研究・外部機関との連携への期待	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと大人が絵本と出会う場に関わる人々との共同研究 ・絵本を活用した多文化理解、他者理解のための活動 ・芸術表現における、余白や間の意味についての共同研究 		